

## ALOS/PALSAR の観測データを利用した南極・昭和基地周辺における干渉 SAR 解析について

### Application of SAR Interferometry with ALOS/PALSAR in Syowa Station region, Antarctica

# 和田 弘人 [1]; 白井 宏樹 [1]; 松坂 茂 [1]; 藤原 みどり [1]; 雨貝 知美 [1]; 藤原 智 [1]; 飛田 幹男 [1]; 矢来 博司 [1]

# Kozin Wada[1]; Hiroki Shirai[1]; Shigeru Matsuzaka[1]; Midori Fujiwara[1]; Tomomi Amagai[1]; Satoshi Fujiwara[1]; Mikio Tobita[1]; Hiroshi Yarai[1]

[1] 国土地理院

[1] GSI

<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/sar/>

国土地理院は、南極地域観測事業に第一次観測隊より観測隊員を派遣しており、これまでに昭和基地を基点として、現地での地図作成や基準点の設置、ならびに重力・GPS・VLBI等の測量を実施してきた。国土地理院では、これら現地における測量作業をサポートし、より広域的な観測を行うための手法の一つとして、2006年10月に定常運用に移行した陸域観測技術衛星“だいち”(ALOS)のLバンド合成開口レーダー(PALSAR)の観測データを用いて干渉 SAR 解析を試験的に実施し、その適用範囲について検討を行っている。

干渉 SAR 解析の南極地域への適用は、例えば Goldstein (1993) の氷床変動の解析や、土井ほか (1999) や小澤ほか (2000) による、昭和基地周辺の地形や棚氷等の抽出に関する研究等が行われており、その有効性が示されていることから、今後の ALOS/PALSAR による、多様で詳細な解析成果が期待される。

本発表では、短期間ではあるが、ALOS/PALSAR による昭和基地周辺、及びその他の露岩域の干渉 SAR 解析の結果を示し、可能であれば、これまでに行われてきた測量成果との比較を行う。